

岐阜県環境影響評価審査会委員会A 議事録（概要版）

- 1 日 時：平成28年12月14日（水） 午前10時00分～午前11時15分
- 2 場 所：岐阜県庁7階 7北-1会議室
- 3 議 題：500kV 飛騨分岐線新設に係る環境影響評価準備書について
- 4 出席者：北田委員、廣岡委員、鹿野委員、浅野委員、高田委員、小椋委員、安藤委員、上野委員、寺田委員、高木委員、山口委員、奥村委員、津川委員
関係市町担当者1名、県関係課等担当者1名、事務局4名、傍聴者なし
- 5 議 事：当該事業に係る環境影響評価の手続きについて事務局から説明。
準備書についての意見及びそれに対する事業者の見解について事業者から説明。
その後、質疑応答を実施。

<質疑応答の内容>

【委員長】

それでは、質疑応答に入ります。事業者から、事前の書面による委員からの意見、前回の審査会での委員からの意見、あるいは、県、市の担当部局からの意見に対して事業者見解の説明がございましたが、ご意見、ご質問がありましたら発言をお願いします。

【委員】

植物については、改変範囲が限られていますので影響は小さいものだと説明がありました。今回、改変面積の大きい変電所の造成が条例対象でなく、分岐線新設が条例対象であることで、植物的には非常に矛盾を感じた訳です。緑化に外来種を導入するというところで、ケンタッキーブルーグラス、クリーピングレッドフェスク、クリーピングベンドグラスは、それほど広範囲に広がっていかないものだと私も思っていますが、だから良いということではないと思います。稲の仲間でも交雑しますので。私達が言う在来種と言うのは、現地にある、現地のものであるという意味合いなのです。中国の在来種というのは、一般的に北半球の温帯地帯に共通するものはありますが、いずれにしても違っているのです。それを全て含めて在来種という言い方は、おかしい話だと思っていますので、なるべく今後も、事業者に対して、この土地のものをしっかりと生産できるような体制で、再生していただきたいというのが願いです。そうでないと、今後50年経って調査をした時に、変なものが入ってきて、当時の資料は残っていないので、こんなところにこんなものがあつたと言っても、誰がいつどこで植えたということが出てきません。それで今、私も一番困っているのです。いろいろなところに、いろいろなものが植えられて、それが分布境界線にあればある程、意図的なものか、意図的でないものかのかという判断をどこがするのかということ非常に困っています。最終的には、DNAで調べるのですが、それでも非常に難しいということから、今後、事業者に対しては環境を守るという観点から、地域の在来種を植える体制をとっていただきたい。先日、現地視察で現地を見た時に、立派なハンノキがありました。このようなブナ帯にハンノキがあるはずがないと思ったのですが、事業者が実は植えたのですと聞いて納得しました。このことも、聞いて初めて分かることなので、どこかに記録がないと将来的に困ってしまうと思っていました。このような情報を記録していくことについて、このままの体制でいいのかということ疑問に思っています。

【事業者】

地域の種子を使用するというところで、別の案件のダム事業では、途中で頓挫して出来てはいなかったのですが、実際の復元の時に、採取して育てた地域の種子を使おうという取り組みはしたことがございます。実際、私どもの調査会社としても、それができれば一番いいとは考えており

ますが、予算の関係や、定着するかという問題、種子を増やすためにかかる期間の問題がございます。このようなイネ科の外来種は、将来的に衰退して在来のものと置き換わっていくだろうということで、まずは土砂の流出を防ぐために、緊急避難的に外来種を使用し、最終的には在来種に置き換わるという形で対策をしたということでございます。

今回、この3種類を選ぶにあたって、有識者の先生に意見を伺った際、今あるところのものが本来良いんだけどなと同じことを言われました。ただ、昨今、特に大雨や土砂崩壊の影響があるので、土砂崩壊で鉄塔の基礎が表れないよう、法面保護を兼ねた上で、将来的には衰退していくものということで、有識者の先生にこの3種類を推薦いただいたという現状であります。先日、現地視察で現地を見ていただいたとおり、近くにチシマザサ等もありますので、将来的には、侵入して在来種に置き換わるのかと思います。また、植える木については、飛騨森林管理署と協議させていただいて植えるのですが、この木が成長すると、いずれは今の外来種は衰退していくのではないかとということで、有識者の先生に確認させていただいて、今回の3種類を選んだということです。

【委員長】

ケンタッキーブルーグラス、クリーピングレッドフェスク、クリーピングベンドグラスの3種類は、衰退していくだろうということですが、これまでの経験からそのようなことが言えるということですね。最終的には在来種に置き換わったという事例があるということですね。

【事業者】

そのとおりです。

【委員】

土砂崩壊に関してですが、現地視察の時に、良いところに鉄塔を建設されるなど思いました。というのも、あの建設地は1時間に100ミリの降水があっても土砂崩壊はまず起こらない。非常に地盤が安定していて、頂上の部分に岩盤が出ていますので、表土がありません。表土のないところに豪雨が降っても崩れることはないのです。豪雨の土石流や土砂崩れというのは、山の頂上付近に約50センチ以上の表土があるところで、100ミリの降水があったら確実に起こります。このことから、事業実施区域は1万年レベルで考えても、豪雨があっても土砂崩壊は考えられない。心配なのは、下の方で、鉄塔のすぐ下の谷も見ましたら、岩盤の強度はありませんでしたので、土砂崩壊が危険な箇所です。建設地の岩盤は、非常に風化しており、チャートのように表面の水が流れないわけです。ある程度滲みていき、表土の下を水が流れるので、専門家に見ていただくといいと思いますが、土砂崩壊はまず考えられないので、外来種などによる緑化を最小限にさせていただくいいのかと思います。確かに、あの建設地は表土がやせていたり、表土がなかったりするので、植物は育ちにくいと思いますが、人間の体でも異物を入れると異常を起こすのと同じですので、出来るだけ移植を最小限でお願いしたいと思います。

【委員長】

今のことに関係して、造成計画では、2,500m³切土し、500m³盛土するとあります。今、あまり表土がないと言われたのですが、先程の事業者の説明では、面積は小さいがかなり深く掘るということですね。そうしますと、2,000m³というのは、どのようなものを想定しているかわかりませんが、例えば、土なのか、岩石を砕いたものなのかを、一時的に土嚢に詰めて保管するということですね。先程、雨が降っても大丈夫だと言われたのですが、雨が降った時の、土砂流出や水質に対する影響を懸念されるご意見がいくつかありました。かなり山深い斜面で、水源にあたるような場所なので、それを心配しています。土嚢を積むなどの対策を行うため、

絶対に大丈夫だと記載がありますが、土砂流出防止対策を確実にやってもらわないと困ることがあります。これまで様々な経験をお持ちかもしれませんが、今言われたような対策で必ず大丈夫なのかということをお聞きしたいです。もう1点、その水質の関連で、工事事務所から出てくるし尿を、汲み取りあるいは合併浄化槽のどちらかで処理するとされている。仮に、合併浄化槽だとすると、その処理水質の基準を担保することが大事なことで、モニタリングが必要になります。以上、生活排水の流出に対する水質の保全、掘削した土壌からの濁水の防止の2点についていかがでしょうか。

【事業者】

今まで、鉄塔工事を多数やらせていただきまして、河川の近く、特に砂防の現場では、土砂流出について、河川課とも打ち合わせを行っております。最近、土を流してはいけないという法律があるので、水だけは流して土砂は止める機能を持ったシートをしがらに貼る対策を施すことで、今まで土砂が流出したことは、実際ありませんでした。今回、記載のとおり掘削土は必ず袋に詰めて置いておきます。掘削土は、全部で2,000m³となりますが、基礎については、約200m³ずつ掘っていくので、量としては一度にそれほど出ません。それを確実に袋に詰め、しがらの周りには、土砂流出防止用のシートを設置させていただくことで、これまでの現場については問題ありませんでしたので、このような対策で土砂流出防止は可能であると思います。し尿については、汲み取りか合併浄化槽かどちらでもとれる記載になっておりますが、今回、鉄塔2基で非常に少ないということもありまして、汲み取りで考えたいと思っておりますので評価書にはその旨、内容を修正させていただきます。

【委員長】

現場では、切土2,500m³のうち500m³を盛土に使うという解釈でよろしいですか。そうしますと、2,000m³の掘削土を現場から運び出すということですね。それも含めて、工事に関係する資材搬入などの運搬トラック台数について、どのように見積もっておられるのでしょうか。大気汚染の意味では、ほとんど問題にならないと思うのですが、場所が場所なので、小動物に対して、そのトラックの運行が影響するのではないかということについてどのように考えておられるか。つまり、工事関係で掘削土を運び出す、あるいは、資材運搬する時のトラックの台数がどれくらいになるのか。また、トラック運行の際に、動物に対する影響があると考えておられるのかについてはいかがでしょうか。

【事業者】

まず、1日のトラックの台数についてですが、鉄塔工事は個々に行っておりますので、2基同時に行うことはありませんので、今、1日に約3台を考えております。資材の搬入を考えても、それ程多くならないかと思っておりますので、大気汚染等もそこまで影響する程のことはないかと思っております。また、動物等への影響についてですが、国有林の中なので、時速20km以下で走行するという決まりがあるのですが、材料等を積んでいたら、実際には徐行程度の時速20km未満でしか走行できないと思います。当然、動物が出てくる可能性はないとは言えませんので、今回、対策でも述べさせていただいたロードキルの防止について、極力急な運転を避けるなど十分な対策をしていきたいと思っております。時間帯についても、早朝や夜間は走行しませんので、基本的には午前8時から午後5時の間で、冬場で暗くなったりすると、午後5時前までの明るい時間帯でしか走らないと思います。

【委員長】

わかりました。では、もう1点よろしいですか。貴重な両生類・は虫類・陸産貝類の確認位置

図で、両生類1種が2基の鉄塔近くで発見されています。これについて特別な注意を払って、影響を与えない対策を考えておられるのでしょうか。影響は小さいと記載があるのですが、それは本当でしょうか。

【事業者】

地形の改変を極力小さくすることや、土砂を流さない対策をとります。もちろん冬の間は土の中に潜っていると思いますので、改変範囲を少なくする考慮をして、今、生息しているものを消滅させない保全を行いたいと思っております。

【委員長】

はい、十分な注意を払って工事を進めていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。

【委員】

植栽についてですが、改変地域が非常に狭いので、私は植栽をせず、自然に生えてくる状態を待った方が良いと思います。ケンタッキーブルーグラス、クリーピングレッドフェスク、クリーピングベンドグラスが衰退して、チシマザサが生えてくるとおっしゃいましたので、それを信じるなら、そのままにしておいてほしい。変なところから変なものを持ち込まないでほしいと思います。鉄塔周辺の改変する地域は非常に狭いので、それ程心配する必要はないと思います。ただ、取り付け道路はまた別で、これとはまた切り離して考えないとならないかもしれませんが、取り付け道路は国有林に入る既設の林道を利用する訳ですから、それは、そのまま残ります。その辺りはいかがでしょうか。また検討をお願いします。

【委員長】

今おっしゃったのは、ケンタッキーブルーグラス、クリーピングレッドフェスク、クリーピングベンドグラスも植えなくても良いのではないかと、ということですか。

【委員】

いえいえ、初歩的な土砂の流出について必要かもしれません。これはまだ結論が出ていませんから、今、良いとか悪いとか言える立場ではないのです。50年後、100年後にどうなっていくかは、誰も予想はつかない訳ですから、長い歴史が必要になります。今のところ、それ程背が高くなる種類ではありませんので、影響も少ないということでこの3種類の外来種が選ばれたことは認めるとしても、その後に関係者と諮って、木を植えることについては、他のところから持ってこない方が良いと思います。自然の回復力はかなりありますので、植えなくてもそのまま放置した方が良いと提案しただけです。

【委員】

今の発言に全く賛成で、土砂崩れ対策のための植物は植えない方が良いという意見です。土砂崩れがあった場所は必ず地形地質に崩れた跡が残りますが、現地視察で事業実施区域を見ましたら、全くそのような気配がないことから、最近土砂崩れがなかった場所なのです。植物は20年から30年で復元します。一番いい例として、美濃加茂インターに高さが約50mで、70度の斜面の崖があり、変な植物をたくさん植えて大変なことになっていますが、そこは、植物がいなくても崩れない地層なのです。美濃加茂インターの近くに高さ20mの垂直の崖があるのですが、ここ何十年と豪雨があっても全く崩れていないのです。このような千年、2千年崩れない地層のところにある崖に、たくさんのお金をかけて無駄な植物を植えている。今回の事業実施区域では、土砂崩れが絶対ないと私は思っておりますが、あちらこちらでそのようなことを見ている

ことから、専門家にこの100年に土砂崩れが起こる可能性をしっかりと調べていただいた方が良いでしょう。土砂崩れを防ぐため、崖崩れを防ぐためにと、土砂崩れ等が起こらない所で、自然を壊してまでも、無駄なお金を投資する必要はないと私は常々思っております。今回、事業実施区域を見て、土砂崩れが絶対起こらないところなので、植物を植えない方が良いと思います。

【事業者】

ご意見をいただきありがとうございます。事業実施区域は、飛騨森林管理署に保安林解除申請を行う時に、岐阜県とも打ち合わせさせていただき、手続を進めていくのですが、その際に、代替をどうするのかという話が出てきます。今回、鉄塔にする部分は、今まで木があった場所の木がなくなるということで、そこでどのようにするかということを、今回の意見を参考に、岐阜県や関係官庁と協議させていただいて、適切な対応をしていきたいと思っております。

【委員】

電波障害に関してですが、予測の基本的な手法のところ、既存の事例等を活用した約3kmで調査されているということで、その既存の事例について、どのような事例で、過去にどのような障害が起きたことがあったのか、もしよろしければ教えていただきたいと思っております。

【事業者】

基本的には、今まで約3kmの範囲内で調査をやっておけば分かるだろうということです。今回については、当初電波障害があるのではないかと予測していたのですが、実際に、モニターとカメラを持って行ってみたら、この地域については、地上波が全く映らない状況でありまして、付近一帯を通り、各地点を含めてやってみたのですが、全く映らないという状況でしたので、過去の事例から約3kmということでもらせていただきました。

【委員】

何十年來、川で様々な調査をやっているのですが、かなりの河川は汚れてきており、浮石がなくなってきた。土砂崩れといった話がありましたが、どの行為であっても汚れたものや土砂なども流れないことはありません。ヨシノボリなど底にすむ魚は、石の下にすんでいるので影響がないわけではない。イワナやアマゴなども当然そのような場所にいますので、産卵場所や餌などの影響がないことはありませんので、極力そういったことは考えていただきたいと思っております。ここでは、発見されていませんが、オオサンショウウオ等の調査をやっている、少なくなっているという状況です。別の時に行くと、河川工事による泥水が流れており、そのような意味では、少しずつ減ってしまいます。ですので、そのような対策は極力やっていただきたいという要望です。

【事業者】

確におっしゃるとおり、今回は内外に様々な動植物等がいて、例えば移植等の具体的な対策はとらないのですが、年々減ってきているということで、せつかくこのような場をもちまして、環境に配慮した事業となるようにということで、作業員等にこのような貴重な動植物がいるということを勉強しながら、極力自然に配慮してやっていきたいと思っております。

【委員長】

雨が降ると、山の斜面の^{ひだ}襞等が小さな水路となって、目に見えてくる水の通り道があると思います。普段は、はっきり見えなくても、そこに住む小動物にとっては重要な場所であると思いま

すので、繰り返しになりますが、ぜひそのようなことに配慮して工事を進めていただきたい。
それでは、これで質疑を終了したいと思います。